

開催報告

日本科学未来館企画展

「波瀾万丈！ おかね道

—あなたをうつし出す 10 の実験」

2013年3月9日(土)～6月24日(月)



2013年3月9日(土)～6月24日(月)までの約4ヶ月間、標題の日本科学未来館企画展が開催され、私も協力させていただいた。この企画展は、お金にまつわる人間の意思決定に見られるおかしなクセや、そのクセを作り出す脳のしくみを扱ったものだ。TV やラジオでもたびたび採り上げられ、世間からも大変な注目を浴びていたが、そのようなニュースを見聞きするたびに、協力者として嬉しく思っていた。

用意された10個の実験場は、いずれもとてもリアルに作り込まれており、さしずめ1つの「集落」のようだった。来場者はその「集落」の中で、人間のおかしなクセをつぎつぎに自ら体験し、会場を後にするときには、お金と人間の切っても切り離せない不思議な関係について思いを巡らさざるを得なくなる、そんな企画に仕上がっていた。

私自身は④認知的不協和の実験場と⑤アンダーマイニングの実験場に、それぞれの研究を中心に担った出馬圭世研究員と村山航研究員と共に協力した。事前に未来館の担当者が研究室に來られ、どのような内容を出せるか打ち合わせをし、その後も何度も電子メールを通じて相談、資料の提供、そして展示内容の科学的な妥当性のチェックを行った。出来上がった展示が想像以上に作り込まれていたのを見たときには、とても驚いた。

④認知的不協和の実験場では、悩んだ末に選んで購入した車種を、購入後もっと好きになってしまうなど、認知的不協和を感じたりそれを解消したりする例がモニターに呈示され、その上に設置されている巨大な脳模型

では、そのときに活動する脳の場所が光る、というからくりになっていた。

⑤アンダーマイニングの実験場では、プロの紙芝居師が広場に現れ、レトロな紙芝居を実演しながら、子どもたちのいたずらをお金によってアンダーマイニングする様子を説明してクイズを出すという内容で、来場者は皆、そんなお金の使い方に頭を悩ませていた。

「餅は餅屋」と言われるが、展示もプロがやるとこんなに面白くできるのだ、と感心した。注意深く実験を行った結果を論理的な研究論文として発表していくという普段の研究活動とはひと味違った、しかし国内社会にはより広くメッセージを伝えられる、そんな貴重な経験ができた。

企画展関連イベント

「いざ実験！あなたがそれを選んだ理由（わけ）」

企画展開催中の5月18日(土)には、企画展会場に隣接するオープンスペースで、未来館スタッフとの協同による標題のイベントも開かせて頂いた。研究室のメンバー達にも全面的に協力して貰った。マイナビニュースでの詳しい報告 (http://news.mynavi.jp/articles/2013/06/05/okane_jikkenn/index.html) にもあるように結果的には大成功だったのだが、何が起るかわからない本番限りの公開実験の緊張感はまた格別であった。

(脳科学研究所 松元健二)

